

1-1. シラバスの役割と活用【本科】

シラバス (syllabus) は、各科目担当教員が授業開始に先立って受講者に提示する授業概要のことです。これは本校の教育課程編成の趣旨に沿って作成したものであり、当該科目の授業概要、教育(達成)目標、詳細な授業内容(計画)、使用する教科書・参考図書・資料、事前にやるべき準備学習(必要な予備知識)、関連科目、評価方法などを明記しています。

このシラバスは次の7つの役割を持っています。

- ①授業選択ガイド
- ②教員と学生諸君との契約書
- ③学習効果を高める
- ④教員と学生諸君との信頼関係づくりのツール
- ⑤授業雰囲気伝える
- ⑥授業全体をデザインする
- ⑦カリキュラム全体に一貫性を持たせる

従って、学生諸君がこのシラバスを読めば、事前に科目担当教員が何を目標として授業するのか、また、何をどこまで、どのような方法で学習するのかも知ることができます。

本校の授業科目は、大きく分類すると「一般科目」と「専門科目」に分けられます。授業進行は、学年が進行するに従って「専門科目」の授業割合が多くなる「くさび型」に配置されています。実践的で創造的な技術者を目指している学生諸君が、専門家としての基盤を充実させると同時に、専門内容への興味を持てるように、「一般科目」と「専門科目」を調和させながら学習を進めるためのものです。また、本校における開講科目は、「必修科目」と「選択科目」の2つに分類され、基礎を重視した「必修科目」は全員が受講しなければなりません。卒業後の進路や興味に応じて自由に「選択科目」を選ぶことができます。従って、このシラバスは学生諸君が「選択科目」を決定する際の重要な指針にもなります。

学生諸君は、科目選択や予習復習に際してこのシラバスを活用して、効率よく勉強するために役立ててください。もし、理解できないことや判らないことがあれば、授業中、放課後に関わらず気軽に先生方に質問してください。

このシラバスの内容や情報を十分に理解して、今後の学生諸君の履修計画立案や理解度の自己点検などに積極的に活用し、有意義な高専生活を送ってください。

1-2. シラバスの役割と活用【専攻科】

シラバス (syllabus) は、各科目担当教員が授業開始に先立って受講者に提示する授業概要のことです。これは本校の教育課程編成の趣旨に沿って作成したものであり、当該科目の授業概要、教育（達成）目標、詳細な授業内容（計画）、使用する教科書・参考図書・資料、事前にやるべき準備学習（必要な予備知識）、関連科目、評価方法などを明記しています。

このシラバスは次の7つの役割を持っています。

- ①授業選択ガイド
- ②教員と学生諸君との契約書
- ③学習効果を高める
- ④教員と学生諸君との信頼関係づくりのツール
- ⑤授業雰囲気伝える
- ⑥授業全体をデザインする
- ⑦カリキュラム全体に一貫性を持たせる

従って、学生諸君がこのシラバスを読めば、事前に科目担当教員が何を目標として授業するのか、また、何をどこまで、どのような方法で学習するのも知ることができます。

本校の専攻科は「生産システム工学専攻」と「応用化学専攻」の2専攻で構成されていますが、両専攻共通に、授業科目は「教養科目」、「専門関連科目」、「専門的科目」の3つに分類されています。また、「専門関連科目」と「専門的科目」は更に「必修科目」と「選択科目」に分かれていますので、専攻科修了後の進路や更に専門性を深める目的で、自由に「選択科目」を選ぶことができます。

従って、このシラバスは学生諸君が「選択科目」を決定する際の重要な指針にもなります。

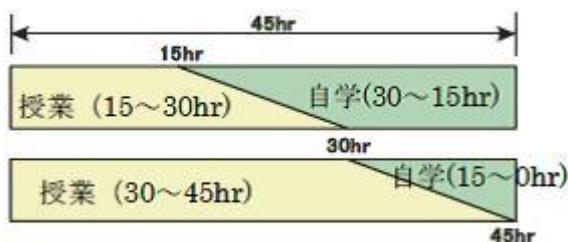
このシラバスの内容や情報を十分に理解して、今後の学生諸君の履修計画立案や理解度の自己点検などに積極的に活用して、有意義な専攻科生活を送って下さい。

2. シラバスの使い方

シラバスには、授業の実施時期、担当教員、内容、到達目標、評価方法などが示されています。学生の皆さんが一年間どのようなことを学び、どういうことができるようになるかを示した資料です。各授業の最初の時間に、担当の先生から説明があります。授業の際には忘れずに持参して下さい。また、予習や復習等に活用し、効率的な学習を進めてください。

<学修単位と履修単位について>

学修単位とは、多くの大学で実施されている単位の認定方法です。この学修単位は、45時間の学修によって1単位が認められるものです。45時間の学修というのは、授業時間（実際の時間）と自分で学習した時間との合計時間を意味します。それを下図に示します。図は、1単位を認定するための授業と自学との割合を示したものです。この図に示すように、講義・演習科目と実験・実習科目とはその扱いがそれぞれ異なります。このような時間が確保されて初めて単位が認定されます。本校の場合は、講義と自学時間とで学修時間45時間を確保しております。これにより、外国留学や他大学への編入の際、本校で取得した単位が、他大学等において換算され易くなります。学修単位は、主に大学1、2年相当である4、5年科目に設定されています。



○講義・演習の場合：15～30時間の授業＋30～15時間の自学・自習

○実験・実習の場合：30～45時間の授業＋15～0時間の自学・自習

履修単位とは、30時間の授業履修によって1単位が認められる、いわゆる「高専単位」のことです。履修単位は、学修単位の45時間に比べて1単位の時間が少ないのですが、授業だけで30時間あるので、先生から多くのことを学ぶ事ができます。低学年の基礎科目のほとんどが履修単位となっています。

3. シラバスの見方と活用のポイント

シラバスには、それぞれの授業科目の開講する学年、単位数（総授業時間数）、開講期、担当教員、各教育目標との対応、教科書/教材等を記載しています。

また、シラバスは授業内容を紹介するとともに、授業科目の教育目標（到達目標）や学習上の注意点、評価方法等も記載しています。

シラバスに記載している各項目の内容について、次のとおり具体的に説明します。

到達目標	ここには、「到達目標」（この授業によって何ができるようになるのか）について書かれています。
評価 (ルーブリック)	ここには、到達目標に対する「到達レベルの目安」（どれくらいできれば、どれくらいの評価なのか）について書かれています。このような評価をルーブリック評価といいます。
学科の到達目標項目との関係	当該授業科目と各教育目標との関係を示しています。
教育方法等 (注意点：自学自習)	学修単位科目では履修単位科目に比べて講義時間が少ないため、皆さんは自学自習をする必要があります。それぞれの授業内容を理解するため（到達目標を達成するため）に必要な自学自習内容（予習復習、課題など）と、そのおおよその時間目安が書いてあります。
授業計画	毎週の授業内容と到達目標が具体的に書かれています。皆さんが自分で各週の達成割合（◎や90%など）を評価し、どの内容が得意で、どの内容が苦手だったかなどのチェック「授業の振り返り（ポートフォリオ）」に役立ててください。
評価割合	達成すべき学習内容をどのように評価するのが評価割合で書かれています。筆記試験などによる「基礎的能力」だけでなく、日々の努力を「分野横断的能力」として評価することもできます。